

平成30年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- 1 学校教育目標、「学びあい、伝えあい、育ち合う、心豊かなたくましい子どもの育成」をめざして、「知をみがく」「生活をただす」「心を育てる」「体をきたえる」の4つの柱で教育活動を推進する。
- 2 「学校・保護者・地域がつながり、ともに歩む学校」をめざして、明るくいいきと活力に満ちた学校、特色ある学校、美しく清潔な学校、地域社会に信頼される学校づくりに取り組む。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		2.7	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書タイムや英語の読み聞かせ、昼のチャレンジタイム等継続して実施した。 ペアやグループでの話し合いを取り入れ、コミュニケーション力の育成を目指した授業や具体物を使った指導等、児童の実態に応じた指導を行った。 毎月1回、生徒指導・人権・特別支援教育情報交換会で児童の実態を情報交換し、共通理解を図りながら組織的な支援を行った。 特別支援コーディネーターを中心に、教育支援員や生活介助員、特別支援ボランティアを活用して、支援を要する児童の指導に取り組んだ。 望ましい生活習慣のため、給食では好き嫌いをなく食べるように指導している。 家庭科の学習を充実させ、よりよい衣・食・住について考えさせるため学習を行った。 給食レシピをHPに載せ、保護者や地域にも食について興味・関心を持ってもらうよう啓発活動を行った。 誕生月には給食のお代わり券を発行し、給食を楽しめるようにするとともに、自尊感情の高揚につながる活動を行った。 全学級、健康教育についての参観授業を実施した。 体育の年間計画を見直し、児童の体力・運動能力の向上を図っている。 尼っ子ジャンプチャレンジランキング(長縄とび)やラジオ体操コンクールに積極的に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイムやがんばり学習の内容を充実させ、引き続き、基礎基本の定着、学力の向上をめざす。 家庭学習の習慣がなかなか身につかないため、家庭学習の手引きや学校だより、PTAの会合等で家庭への協力を依頼する。 計画的な参観授業、行事等を実施することで、保護者が参加しやすい状況を整え、保護者に学校への関心を持ってもらう。 書く力、自分の考えをまとめる力に課題があるので、各教科ノート指導を引き続き行っていく。 ほぼ毎日、残食ゼロの学級が半数あった。次年度以降も続けて指導する。 給食お代わり券が定着し、自分の誕生月を楽しみにしている児童が多かった。 尼っ子ジャンプチャレンジランキング(教育委員会主催長縄飛び競技)には全クラス参加し、上位にランクインできていた。 		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もがすごしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3.0	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> Keep Smiling!(笑顔でいよう!)を合い言葉に、教育活動に取り組んだ。合い言葉を意識的に用いることで、児童の意識化も進んでいる。 全学年で取り組む道徳の授業では、命の尊さや人権、他者への思いやり等の指導を継続して実施している。 道徳教育や学級づくり、縦割り班活動を中心とした特別活動を通して、自尊感情の高揚に努めている。 繰り返し徹底して指導し、基本的な生活習慣の定着に取り組んでいる。 教職員の「報告・連絡・相談」体制を徹底している。 月1回の生徒指導・人権・特別支援教育情報交換会や学期に1回の生活アンケート等で、児童の実態について共通理解を図りながら、いじめ、問題行動等の早期発見、早期対応、未然防止に努めている。養護担当やSC、SSWや関係機関との相談体制も整っている。 将来に対する夢や希望が持てるよう、適切な職業観を育むため、キャリア教育の取り組みとして、公民館主催で様々な職種の方とふれあうワークショップを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権週間では、道徳(人権)授業の公開を通して、児童だけでなく、教職員や保護者の人権意識や道徳性の向上に取り組んだ。 縦割り班活動を充実させる。なかよし活動やなかよし遠足を通して、高学年児童に自己存在感や自己有用感が持てるように計画した。 基本的な生活習慣が確立できるよう、引き続き、保護者への協力依頼・啓発を行う。 教職員全体で共通理解を図りながら、児童を指導し、保護者への連絡や連携を密にするように努める。 いじめを未然に防ぐために、児童の様子を観察し、課題を共有するように努める。 保護者や来校者への対応として、丁寧な接遇を心がける。 教師が児童の見本となり、率先して言葉遣いや言語環境を整えていく。 		

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する	3.0
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の機会に、教職員によるミニ講座を実施し、資質向上に努めている。 ・教職員が積極的に研修に取り組める体制づくりに努めている。 ・校務分掌の分担を見直し、それぞれの教職員をバランス良く配置し業務改善に努めた。 ・情報の伝達、共有に努め、児童の状況については随時報告し合い、共通理解のもと指導ができるように取り組んだ。 ・園田カーニバルや敬老会等、地域開催の行事に児童が参加する機会をもち、夏祭りや学校開放運動会など地域行事に本校教職員も参加し、地域と学校の一体感が高まるよう取り組んだ。 ・地域学校協働本部を立ち上げ、コーディネーターを中心に地域との連携を図っていく。 ・地域の図書ボランティアによる読み聞かせや図書室の掲示物作成を行っている。 ・学校ホームページは月平均4回以上更新し、積極的な情報発信に努めている。 ・全児童欠席ゼロの日を増やす。 ・外国語授業について、千葉県青葉区校長会(20名)を受け入れることで教員や児童の自尊感情を育成する取り組みを行った。 ・本市PRのためのホームページ「尼の國」の取材を受けた本校外国語活動への取り組みの記事が掲載されたことにより、全ての関係者の愛校心につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日の設定を保護者へも周知し、教職員にタイムマネジメントを引き続き意識させていく。 ・学校評議員会や学校評価を活用する。教職員はPDCAサイクルに基づいた学級経営を展開する。若い教職員が多いため、中堅・ベテラン教師によるOJTで実践的指導力を身につける体制作りを進めていく。 ・校内研修の充実を図りながら、校外での研修を積極的に活用する。 ・地域コーディネーターが地域と学校の連携における中心となるよう、引き続き協議していく。 ・全児童欠席ゼロ。現在は5日。学校を休まず元気に登校できるよう、不登校担当を活用し、家庭訪問等個々の児童の特性と家庭環境に応じた対応に努めた。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	3.2
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・PTAや支援ボランティアの見守りにより、登下校時の事故はない。 ・非常変災時、児童の保護者への引き渡しや集団下校の連絡等、一斉メール配信(企業メールサービス)を使いスムーズに連絡できる体制を整えてきた。 ・校内安全については、安全管理員及び本校教職員によるパトロール、電子ロックやインターホンでの来客に対する対応等、安全確保に取り組んだ。 ・月1回、教職員による安全点検を実施している。 ・防災教育についての参観授業と避難訓練、引き渡し訓練を同日に実施し、児童だけではなく、保護者についても防災意識(地震・津波)の向上を図っている。 ・「自分の命は自分で守る」という意識を持たせるとともに、災害発生時にどのように行動すべきかを年間3回の避難訓練(避難経路の確認、火災、地震・津波)や日頃の学級指導を通して指導した。 ・定期的に地区児童集会和集団下校を実施し、危機管理能力の向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徹底して安心安全な環境作りに取り組む。 ・今年度は地域の力により校区内にある反社会組織の動きが沈静化しているが、警察や市教委等、関係機関・地域との連携を図り、今後も情報収集と情報共有に努め、安全で迅速な対応をしていく。また、登校時の安全確認についても、引き続き行っていく。 ・安全に避難するための合い言葉「おはしもち」が意識せずともできるよう指導していく。 ・いろいろなケースを想定した訓練(本校の地理的条件も考慮し)、例えば津波時の避難のため学校近くの避難場所へ避難する訓練を計画し実施していく。 ・一斉メール配信(企業メールサービス)に登録している家庭数を100%を目指す。(現状94%) 	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.9
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標達成に向けた学級目標、年間行事・教育計画を立案し、実施することができた。教育目標の具現化・・・4つの柱で取り組んだ。 ＜知をみがく＞ 朝読書やチャレンジタイムの継続的な指導で基礎学力を定着させる。放課後がんばり学習の効果的な運用と家庭学習の習慣化をめざした。 ＜生活をただす＞ 基本的な生活習慣の確立をめざす。家庭と連携し、生活指導を徹底する。児童会を活用した効果的な生活指導に取り組んだ。 ＜心を育てる＞ 道徳(人権)学習を継続して行う。小規模校の特性を活かした、なかよし活動を実施する。低中高同一グループ内で仲良く学び、意欲的に活動できた。 ＜体をきたえる＞ ランランRunningや尻っ子ジャンプチャレンジランキング(長縄とび)、ラジオ体操コンクールに引き続き挑戦できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に努め、児童の実態を把握し、学習意欲を高め学力向上に取り組む。 ・家庭への啓発、支援、相談を積極的に行い、基本的な生活習慣の確立と家庭での学習習慣の確立に努める。 ・PDCAサイクルに基づき、学校評価等を用い教育目標達成に向けて全教職員で取り組む。 		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3.1
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある学校づくりの一環として、外国語活動・外国語に取り組む。 ・海外の学校(台湾、清水小)とのスカイプ交流等、外国語教育だけでなく国際理解教育としても取り組んだ。 ・「外国語を通じてコミュニケーションを楽しむ子どもの育成」を目指して、研究主任、担任、ALT・JTEを中心に教職員が一丸となって取り組んだ。 ・一人一授業の実施。講師(関西大学今井裕之教授)を招聘、授業後の事後研究会や講演会でこれからの英語教育の進むべき方向性を学ぶ機会をもつ。先進校視察に出かけ、授業力の向上を目指す。 ・事後研究会はワークショップ型KJ法で進め、全員参加の活発な討議を行った。 ・授業公開は市内全小中学校及び市教委に案内し、多方面からの意見を取り入れることで、小規模校の弱点を補うように努めた。 ・ClassRoomEnglishを取り入れ、掲示物等日常から英語に慣れ親しむ環境を目指し取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究を始めて10年目、研究主任のリーダーシップのもと、本校が進める外国語(英語)授業ができるよう、授業支援や助言、校内研修等を積極的に行っている。 ・ClassRoomEnglishを積極的に取り入れ、廊下や階段の掲示等、環境整備をさらに進めるなど、学校生活の中に外国語を身近なものにしていく。 ・研究授業だけではなく、全てのオープンスクール時における外国語授業の案内を行う。 ・外国語の授業で培ったスタイルを、他教科の学習でも活かしていく。 		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		